沖側から数時間かけ、浜側の胴函に魚を追い込ん 今年は見ることができない「石がま漁」の様子。 でいく――県教委提供

県の無形民俗文化財に指定されている湖山池

一 B

新聞

馬

取 版

2013

た。石と石の隙間など の担当者)の事態だっ

分の1から4分の1程

に越冬する魚が潜む習

性を利用した漁だが、

かるのは難しい見込

に実の除去に取りか

は「できるだけ早く対 み。市や県の担当者 こともあり、今冬の

予定だが、水温が低

H心の隙間や 魚道など

しまい、魚がほとんど がヒシの実で埋まって

塩分濃度を下げるわけ 取り出せたとしても、 まっているヒシの実を 市の担当者も「現在詰 数値も示されている。 度」と塩分濃度の目標

湖化を目指し、塩分濃度を引き上げた影響で、 用する魚礁に水草「ヒシ」の実が詰まるなどし、 当課が共同で対応策の検討を始めたものの、「汽 発芽せず湖底に残ったヒシの実が大量に流れ込 **操業できていない。 昨年から県と鳥取市が汽水** 挟みに頭を悩ませている。 小湖化による環境改善」と「文化財保護」の板 2だのが原因と見られるという。 両自治体の担 、鳥取市)の伝統漁法「石がま漁」が今冬、使 【田中将隆】

石がまの形状図 突穴

れまで、大量発生で汚 いた水門の開放頻度を 池と日本海を分断して の効果を見せてきた。 していたヒシの繁茂を 積み上げ作った魚礁に 抑制するなど想定通り 多くすることで、塩分 低に残ったヒシの実 が、石がま漁用に石を 昊問題などを引き起て **優度の調整を開始。**こ 県と市は昨年3月、 方で、発芽せず湖

汽水化 ま 礁 着しているのも確認さ ジョン」で決められた でけがする危険性も指 とがったフジツボの殻 の上に立った際、鋭く れており、漁師が魚礁 息しないフジツボが付 魚礁には、淡水には牛 長期計画。 20~30年後の池の姿を が昨年1月に策定し、 摘されている。 焦礁にいないという。 がした「湖山池将来ビ 汽水湖化は、県と市

「海水の10

対策協議に入った。今 た上で、県の担当課と 当職員が現地で確認し きない状況を相談。担

月中にも再度、実務者

たことが無い」と話し を与えるケースは聞い 俗文化財の保護に影響 が、自治体の施策で民

レベルでの会合を開く

ている。

ける同市三津地区の住

兼ね合いで埋蔵物など 当者は「道路工事との

石がま漁を現在も続

、が1月、市に漁がで

難しくなることは多い の有形文化財の保護が か検討したい」と対応 策を取ることができる 透明。今後、どんな対 る状態に戻せるかは不 にはいかず、漁ができ

ころから

県教委文化財課の担

えなくてはいけない」

ためにどうするかを考 で「来年以降の漁の 応したい」とする一方

と長期戦の構えも見せ

に苦慮している。

県·鳥取市

人り、漁を不可能にし

「想定外」

個の石を積み上げて造った魚礁の ばれる木箱に追い込み、最終的に ことで「胴函(どうかん)」と呼 中に潜むフナなどの魚を、石がま などに住み着く性質を利用。数千 寒期に越冬しようとする魚が岩場 湖山池だけでしか見られない。厳 上部の「突穴」から松の棒で突く ■ 伝統漁法。全国で鳥取市の る人工の魚礁を使って行う 7~8 があるが、浜に近い胴函に 約10以。幅は沖合に面した部分は が、現在は4基に激減している。は86基の操業が確認されている 005年に県無形民俗文化財に指 漁期は1月下旬から約1カ月。2 用されていたと言われ、明治期に 度になる。1700年前後には使 近づくにつれて細くなり、2
沿程 全長

石がま漁 「石がま」と呼ばれ 網ですくい上げる。魚礁は、 でいく―県教委提供沖側から数時間かけ、浜側の胴函に魚を追い込ん今年は見ることができない「石がま漁」の様子。



1がま漁」操業できず

田田

新聞

馬

取版

2013

積み上げ作った魚礁に が、石がま漁用に石を か、石がま漁用に石を が、石がま漁用に石を が、石がま漁用に石を が、石がま漁用に石を が、石がま漁用に石を が、石がま漁用に石を が、石がま漁用に石を が、石がま漁用に石を が、石がま漁用に石を が、石がま漁用に石を

ま 礁 着しているのも確認さ ジョン」で決められた 20~30年後の池の姿を でけがする危険性も指 とがったフジツボの殻 の上に立った際、鋭く れており、漁師が魚礁 息しないフジツボが付 魚礁には、淡水には牛 しまい、魚がほとんど 長期計画。 が昨年1月に策定し、 摘されている。 焦礁にいないという。 がした「湖山池将来ビ 汽水湖化は、県と市 石がま漁 「海水の10 「石がま」と呼ばれ レベルでの会合を開く

た。石と石の隙間など の担当者)の事態だっ 性を利用した漁だが、 がヒシの実で埋まって H心の隙間や 魚道など に越冬する魚が潜む習 分の1から4分の1程 ける同市三津地区の住 塩分濃度を下げるわけ 取り出せたとしても、 まっているヒシの実を 市の担当者も「現在詰 数値も示されている。 度」と塩分濃度の目標 対策協議に入った。今 た上で、県の担当課と 当職員が現地で確認し きない状況を相談。担 か検討したい」と対応 策を取ることができる 透明。今後、どんな対 る状態に戻せるかは不 にはいかず、漁ができ 月中にも再度、実務者 に苦慮している。 へが1月、市に漁がで 石がま漁を現在も続 ている。 ている。 えなくてはいけない」 かるのは難しい見込 こともあり、今冬の は「できるだけ早く対 み。市や県の担当者 に実の除去に取りか 難しくなることは多い の有形文化財の保護が 当者は「道路工事との と長期戦の構えも見せ ためにどうするかを考 で「来年以降の漁の 応したい」とする一方 予定だが、水温が低 たことが無い」と話し を与えるケースは聞い 俗文化財の保護に影響 兼ね合いで埋蔵物など が、自治体の施策で民 県教委文化財課の担

県·鳥取市

人り、漁を不可能にし

想定外

個の石を積み上げて造った魚礁の ばれる木箱に追い込み、最終的に 中に潜むフナなどの魚を、石がま などに住み着く性質を利用。数千 寒期に越冬しようとする魚が岩場 湖山池だけでしか見られない。厳 ことで「胴函(どうかん)」と呼 上部の「突穴」から松の棒で突く ■ 伝統漁法。全国で鳥取市の る人工の魚礁を使って行う 7~8 があるが、浜に近い胴函に 約10点。幅は沖合に面した部分は が、現在は4基に激減している。は86基の操業が確認されている 網ですくい上げる。魚礁は、 005年に県無形民俗文化財に指 漁期は1月下旬から約1カ月。2 用されていたと言われ、明治期に 度になる。1700年前後には使 近づくにつれて細くなり、2
沿程 全長